

生死を分けた心の罫 川治プリンスホテル火災

昭和55年11月20日午後3時12分ごろ、館内に突然火災警報器のベルが鳴り響きました。紅葉見物を終え、それぞれの部屋で休憩中の二つの老人クラブは、突然のベルを聞き、正反対の考え方、行動をとりました。

結果、宿泊客112人のうち40人が死亡。犠牲になった40人のうち36人は**正常性バイアス**に陥っていた老人クラブAの人たちでした。

老人クラブA

- ▶自分は大丈夫
- ▶こんな屋間に火事は起きない!
- ▶きっと、点検中か何かの間違いだよ!

正常性バイアス(思い込み)に陥る

逃げ遅れる

老人クラブB

- ▶何があったんだろう!
- ▶火事かもしれないぞ!
- ▶ちょっと様子を見に行こう!

正常性バイアス(思い込み)から抜け出す

避難し助かった

Aの人たちは、火事など起きるはずがないという心の罫に陥り、日常から非日常への切り替えができなかったのです。一方、Bにはリーダー的な人が存在し、ベルの鳴動ですぐに心の緊急スイッチが入り、心理的な支配から抜け出し、難を逃れることができました。

問い合わせ先 京丹後市消防本部 (☎62-0119) ※ホームページもご覧ください。 <http://www.city.kyotango.lg.jp/kcfd>

準備をしてくださいます。職場や地域などで行われる防災訓練には積極的に参加しましょう。緊張感のある訓練を繰り返すことが、いざというときの冷静な判断力を養い、素早い避難行動につながります。

日ごろからの心がけや訓練を大切にして、いつでも心の緊急スイッチを押せる準備をしておくことが、災害に対する心の備えとなります。



丹後中学校の生徒と丹後子ども園の園児による合同の津波避難訓練の様子(平成27年6月11日)

誰もが陥る**思い込み**の危険! なぜ人は逃げないのか?

このような場面に遭遇したら、あなたはどうしますか?



- ➔ 買い物中、突然火災警報器が鳴りだした。
- ➔ 周りの人は買い物を続けている。

消防の広場

119

火事・救急・救助

ついでに
住宅用火災警報器
月に一度は動作点検



周りの人が買い物を続けているので避難しない。



まさか火災ではないだろうと考え避難しない。



どうしていいかわからない。頭が真っ白になってしまう。



慌てて逃げ出す。頭が混乱して泣き叫ぶ。

集団同調性バイアス
(思い込み)

周りの人と同じよう
に行動していたら
大丈夫だろうと
考える心理。

正常性バイアス
(思い込み)

多少の異常があっ
たとしても正常の
範囲内だろうと考
える心理。

凍りつき症候群

突然起こった災害
に対して、心と身
体が固まってしまう
状態。

パニック

災害時に起こる
混乱状態。

※バイアス=思い込み、偏見、先入観のこと

バイアス(思い込み)が 逃げられない原因

右ページの場面を見て、「生死を分けるような災害だ」と考えた人は、予期せぬ災害に遭遇したときに、茫然として何もできなくなる凍りつき症候群に陥りやすいタイプといえます。

また「これくらいなら大丈夫だ」と考えた人は、異常な状況を正常な範囲ととらえたり、周囲に合わせることで安心を得ようとする傾向があり、**正常性バイアス(思い込み)**や**集団同調性バイアス(思い込み)**に陥りやすいタイプといえます。

で、すぐには逃げられないのです。
誰もが持っている特性
凍りつき症候群やバイアス(思い込み)は誰もが持っている心理的な特性であり、何も特別なことではありません。
緊張する場面などでどうしていか分からなくなり、頭が真っ白になったという経験は誰でもあることだと思えます。また、日常のちょっとした変化にいちいち反応しては、すぐに心が疲れてしまいますし、周りの人と合わせようとするのは、円滑な社会生活を送るためには必要不可欠なことです。

日常から非日常へ 心の緊急スイッチを!



しかし、これらの特性が行き過ぎると、茫然自失で身動きがとれなくなったり、危険を過小評価したりして、結果として避難できなくなってしまう。
では、どうすればいち早く避難ができるようになるのでしょうか。大切なことは、誰もがこのような心理的な特性を持っていて災害時の避難行動に影響するということを理解することです。そして、少しでも様子がおかしいと感じたら、日常から非日常へと気持ちの切り替えて、いつでも避難できる